



Hokkaido Lifelong Learning Association

ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出合いや発見がきっとある



目次

- | | | | |
|---|---|---------------------------|---|
| ●令和元年度「第1回理事会・定時評議員会開催」… | 2 | ●令和元年度「賛助会員のつどい」開催します! …… | 4 |
| ●寄稿「新しいことを学ぶ、みんなで学ぶ時間を
大切に作る開拓の村ボランティア」… | 3 | ●私の生涯学習…………… | 5 |
| ●わがまちの生涯学習…………… | 4 | ●随想46…………… | 6 |

令和元年度第1回理事会・定時評議員会開催

5月10日理事会、5月28日定時評議員会がそれぞれ開催され、「平成30年度事業報告」、「平成30年度決算報告、監査報告」及び「理事の辞任に伴う補充選任（案）」が審議され承認されました。

新旧役員紹介

【退任】

専務理事 伊藤 文明（公益財団法人北海道生涯学習協会事務局長）
理事 国貞 泰生（北海道放送（株）取締役報道制作センター長）

【信任】

専務理事 上野 靖（公益財団法人北海道生涯学習協会事務局長）
理事 小玉 満（北海道放送（株）取締役編成局長）

正味財産増減計算書内訳表

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

（単位：円）

科 目	公益目的事業	収益事業等会計	法人会計	内部取引控除	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	67,648	0	67,648	0	135,296
受取会費	696,500	0	696,500	0	1,393,000
事業収益	585,608	0	0	0	585,608
受託事業収益	23,351,000	1,030,000	4,999,000	0	29,380,000
受取補助金等	5,332,000	0	0	0	5,332,000
受取寄付金 (一般社団法人札幌ゴルフ倶楽部)	100,000	0	100,000	0	200,000
経常収益計	30,132,756	1,030,000	5,863,148	0	37,025,904
(2) 経常費用					
事業費	30,594,089	184,176	0	0	30,778,265
給料手当	16,180,499	34,180	0	0	16,214,679
臨時雇賃金	539,470	0	0	0	539,470
福利厚生費	2,579,685	5,810	0	0	2,585,495
旅費交通費	1,267,730	0	0	0	1,267,730
通信運搬費	1,737,882	16,030	0	0	1,753,912
減価償却費	87,255	0	0	0	87,255
消耗品費	2,446,898	5,611	0	0	2,452,509
印刷製本費	2,296,296	0	0	0	2,296,296
賃借料	1,078,925	40,352	0	0	1,119,277
諸謝金	748,500	0	0	0	748,500
租税公課	1,214,400	57,200	0	0	1,271,600
支払負担金	0	0	0	0	0
委託費	340,200	20,412	0	0	360,612
支払利息	76,349	4,581	0	0	80,930
管理費	0	0	5,673,002	0	5,673,002
給料手当	0	0	4,167,930	0	4,167,930
福利厚生費	0	0	621,657	0	621,657
会議費	0	0	8,072	0	8,072
旅費交通費	0	0	165,320	0	165,320
通信運搬費	0	0	74,502	0	74,502
消耗品費	0	0	51,695	0	51,695
賃借料	0	0	63,836	0	63,836
租税公課	0	0	446,200	0	446,200
支払負担金	0	0	52,500	0	52,500
委託費	0	0	17,388	0	17,388
支払利息	0	0	3,902	0	3,902
経常費用計	30,594,089	184,176	5,673,002	0	36,451,267
当期経常増減額	-461,333	845,824	190,146	0	574,637
2. 経常外増減の部					
他会計振替額	461,333	-845,824	384,491	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	574,637	0	574,637
一般正味財産期首残高	0	0	4,702,146	0	4,702,146
一般正味財産期末残高	0	0	5,276,783	0	5,276,783
II 指定正味財産増減の部					
指定正味財産期首残高	10,000,000	0	10,000,000	0	20,000,000
指定正味財産期末残高	10,000,000	0	10,000,000	0	20,000,000
III 正味財産期末残高	10,000,000	0	15,276,783	0	25,276,783

新しいことを学ぶ、みんなで学ぶ時間を大切にする開拓の村ボランティア

一般財団法人北海道歴史文化財団事業本部長

野外博物館北海道開拓の村館長 中島 宏一

私が勤務する野外博物館北海道開拓の村（以下、「開拓の村」という）には、お客様を解説案内するボランティアが約200名いる。ボランティアによる解説案内活動は1987年（昭和62）から始められ、以降、演示活動、行催事活動への協力など、活動領域を広げてきた。

この集団の特徴は高齢者で占められていることだ。活動草創期、「現役を退役された方」、「明治・大正期に生きた先人たちの生き様を後世に伝える語り部」といったコンセプトのもとに募集が行われたため、当初から高齢者で占められていた。しかし、現在はさらに高齢化が顕著になり、その平均年齢は72才、男性は75歳以上のいわゆる後期高齢者が多数を占め、女性もこの数年急激に高齢化が進んで69歳だ。この数字だけを見れば、おじいちゃんおばあちゃんの集団をイメージすることだろう。そういう方は是非開拓の村に来てほしい。そして、開拓の村の中を走り回るボランティアの姿を目に焼き付けてほしい。

「案内してくれてありがとうございます。ボランティアさん元気だね～、おいくつですか？」

「今年80歳になります」

「…」

というのは、お客様より遥かにボランティアの方が年上だったからだ。

こんな光景は日常茶飯事だ。

誰もが羨む元気な高齢者の集団、それが開拓の村ボランティアだ。

なぜ、彼ら彼女たちはそんなに若いのか。それは新しいことを学ぶ姿勢が常に旺盛で、しかも友達やグループで楽しむ時間を大切にしていることだ。新しいことを学び、学びを深化させ、その成果を仲間同士で共有するほか、第三者に提供する。この行いすべてが自発性、無償性のもとで実践され、公共性を付帯する。つまり、自分たちの行いが社会の役にたつことを自覚し実践している「生涯学習ボランティア」なのだ。

そこで開拓の村では、ボランティアの生涯学習活動を支援する環境整備に常日頃取り組んでいる。他施設の方が視察に来た時やお客様が、職員とボランティア、曜日ごとにグルーピングされたボランティア相互の日常的なコミュニケーションが活発なことに驚かれるが、本稿では私ども職員とボランティアが協働して作り上げた2つの活動を紹介する。

その一つが開拓の村ボランティア研修制度「北海道開拓の村アカデミー」。これは、新規活動者がボランティアに登録するうえでの事前学習とベテランボランティアの振り返り学習を趣旨としたプログラムで、「基礎講座」「専門講座」「リフレッシュ講座」「ボランティア企画講座」など7つの講座で構成されている。このなかには道内・外研修旅行や一日探訪旅行なども含まれており、開拓の村の外でもボランティア相互で学び合い、新しい仲間づくりが展開されている。

もう一つが「むらびと登録制度事業」だ。開拓の村という歴史遺産を末長く後世に残していくための意識を私どもと共有しその輪を広げていくために、建造物にむらびと登録（住民登録）して、その家に住人になりきって往時の暮らしぶりの再現に取り組む活動だ。再現活動に取り組むには新しい学び合いが必要だ。そこで彼らは、建造物の旧所在地や興味関心がある地域、流行の場所の小旅行を企画実践するほか、資料収集にあたりとアグレッシブな活動を展開する。そしてその成果は日々蓄積され、日常のボランティア活動の解説にも反映される。

こうした学習に積極的に取り組むことで、彼らは北海道の新たな一面を紐解き、知り学び、自ら暮らす北海道に誇りを持ち、「ほっかいどう学」を体現する語り部となる。

だから開拓の村ボランティアは若々しく、日々澁刺としているのだ。

わがまちの生涯学習

倶知安町教育委員会

教育長 村 井 満

後志管内の西部に位置する倶知安町は、人口約1万5千人の町です。富士山に似た姿から「蝦夷富士」とも呼ばれる羊蹄山とニセコアンヌプリを主峰とするニセコ連峰に囲まれ、清流尻別川が流れる自然が豊かな町です。また、道内でも有数の豪雪地帯として知られており、冬には豊富に降り積もる上質なパウダースノーを求めて国内外から多くの観光客が訪れ、スキー場周辺地域をはじめ倶知安駅周辺の市街地においても国際色豊かな賑わいを見せます。

世界に誇れる国際リゾートをめざす倶知安町は、近年、冬だけではなく夏の遊びも充実してきました。

ラフティングやサイクリングの他、リバーサップやマウンテンバイクなど豊かな自然環境を活かした新たなアクティビティメニューが誕生しています。

さらに、羊蹄山の豊富な湧水や昼夜の寒暖差が大きい気候条件のもと、じゃがいもはもちろんメロンやアスパラガスなどの農業も盛んな町です。

本町における生涯学習は、「夢・喜び・安らぎ～つながり支えあうまちづくり～」を基本理念に「健全な青少年を育む世代間交流の推進」、「生きがいつくりの推進」、「生涯にわたるスポーツの振興」、「文化の振興をめざすまちづくり」、「社会教育施設等の整備と充実」を5つの柱として「明日の倶知安町をつくる人づくり」を積極的に進めています。

■青少年を育む～くっちゃんワンダーキッズ～

ニセコ連山や羊蹄山などの郷土が誇る大自然の中で、文化・スポーツなどのさまざまな体験活動を通じて、「知・徳・体」の成長、「豊かな心」「生きる力」の基盤を育むため「くっちゃんワンダーキッズ」を実施しています。町内の小学5年生を対象としており、倶知安の歴史を学ぶ硫黄鉱山跡見学、羊蹄山登山や羊蹄1周の50kmサイクリングなど、倶知安町・羊蹄ニセコエリアを活用したプログラムなどで年間10回程度の活動を行っています。

郷土を愛し未来の倶知安を背負って立つ人材、更には世界で活躍できる人材に成長してくれると期待されています。



(くっちゃんワンダーキッズ:羊蹄山登山)

■生きがいつくり～倶知安町寿大学～

生涯学習の1コマとして心身ともに健康で明るく生きがいのある生活を送ることを目的として「倶知安町寿大学」実施しています。対象者については、倶知安町に在住する65歳以上の方を対象としており、年間で、開講式、学習講座11回、バス遠足、宿泊研修、閉講式と「ひとこと文集」の発行を行っています。

令和元年度の登録人数は男性27名、女性88名の合計115名となっており、集い、語り合い、励まし合い、刺激し合って共に学び、倶知安町のまちづくりに大きく寄与されています。

■文化の振興～小川原脩記念美術館～

倶知安町に生まれ、戦後は一貫して郷里での創作を続けた小川原脩の名を冠した小川原脩記念美術館があります。シンプルでありながらも存在感のあるこの美術館では、小川原脩作品を常設展示するだけでなく、この地域ならではの展覧会やミュージアムコンサートなど、さまざまなイベントを開催しています。

令和元年度「賛助会員のつどい」開催します！

(公財)北海道生涯学習協会では、賛助会員相互の研修と親睦を深めることを目的として、次のとおり「賛助会員のつどい」を開催します。当日は、副館長大原昌宏教授から館内を案内していただき、その後展示物や貴重な資料についてお話を伺う予定としていますので、8月2日(金)までに申し込みください。

- 1 日 時 令和元年8月9日(金) 9:50受付～12:00解散
- 2 場 所 北海道大学総合博物館(札幌市北区北10条西8丁目)
- 3 参加費 無料
- 4 参加人数 50名(賛助会員限定)
- 5 その他 連携講座として「教養2単位」認定

私の生涯学習

道民カレッジ生（札幌市）

吉田良子

専業主婦としての生活の中で唯一生涯を通して学んできたことといえば「書道」です。

字を書くことが好きで、小学校5年生から「会」に所属し、大人になっても続けました。

筆を休めたのは、二人の子どもを育てる10年間で、第2子が小学校入学と同時に再スタートしました。

30代の頃、先輩の方から書道教室の補助をしてほしい旨の要請を受け、真駒内の2カ所で数年間続けました。

以後、夫の転勤異動により、旭川でのサークル教室の指導、帰札してからは、障がい者学級の社会復帰のための日常使用の筆字指導、また、自宅での「教室」をスタートさせました。指導にかかわってきたのは30数年にわたります。

また、自分自身の学びとして公募展への出品を続けてきました。北海道新聞書道展、毎日新聞書道展、創玄展の一科・二科と描き続けました。夜中から朝方まで書いた仲間もいたようです。

私は家族が寝静まったところで、静かに流した水で筆を丁寧に洗っていた日々を今でも忘れられません。

指導していた子どもたちは、幼稚園児から18歳までの子でとても楽しく過ごしました。子どもたちの純粹無垢な気持ちからたくさんの創作意欲をいただきました。

自宅教室では年に2回年賀状と暑中見舞いを、祖父母様と御両親様宛に文字と好きな絵を書かせてきました。

ハガキの中に色彩を入れたらよいのでは…と考え、私自身も絵手紙教室に2年間通いました。また、勉強として漢字の他に、かな文字、硬筆を学習し、師範をとることができました。さらに筆をつかって何かできることはないかと考え、道新文化センターでおこなわれていた「賞状士育成講座」に5年間程通いました。今まで学んできた作品づくりと違い「自分の字をすてて下さい」と言われ、大きなショックを受けました。連綿（つづけ字）はダメ、字は横幅に広く、つぶす様になどと、今までとはまったく違うことにどう対処してよいのか戸惑うばかりでした。

数年前、夫が他界し、生活が大きくかわりました。

展覧会への出品はすべてやめることにしました。今後どの様に筆をもち続けたらよいのか大きく悩みまして思いついたのが「百人一首」を木札に書いてみることにし、また写経を書く、かな文字（好きな句）を書き軸装することなどでした。

木札には苦勞しました。全国に問い合わせ旭川の材木店により「しなの木」でつくっていただけることになりました。まずは、図書館へ行き、すべての和歌を理解したうえで、紙面に百枚を模写し、次に合板に百枚書いてみました。三度目に「しなの木」に挑んでみました。墨はにじまないものを、筆は何本かを使い分けて仕上げました。3ヶ月程かかりました。写経に関しては、夫が病に倒れた際、苦しんでいる姿を見ているのがつらく、気持ちをおちつかせるために経典を一冊すべて書きあげました。小字で半紙23枚を何日で仕上げたかは今も記憶にありません。



そんな中、シルバー人材センターよりお声がかかり「筆耕」の仕事を請け負うようになりました。

喪中ハガキの宛名書、年賀状の宛名（法人、個人）、成人式の挨拶状巻物、謝辞巻物、遺言書の代筆、褒章受章者祝賀会招待状封書、結婚式の案内状封書、年明けには卒業証書の名入れ、生年月日、連番など今年は2,000枚以上書きあげました。11月、12月、1、2、3月と多忙時期のため専念しております。

数年前、道民カレッジを紹介していただき入学しました。楽しく学ぶことができ充実した日を送れる様になりました。めだかの学校、医療講座、北海道大学の公開講座、女性大学、ほっかいどう学など、すばらしい講座にめぐり会い、新しい世界を知ることができました。これまで続けてきた筆との世界と両立させながら、今後も学ぶことを大切にしていきたいと考えております。

随想46

増え続ける略号

今年2019年2月1日、EPAすなわち日本と欧州連合EUとの間の経済連携協定が発効したと報じられた。互いの関税削減・撤廃をするもので、欧州産ワインやチーズが安く入手できるようになり、日本からは日本酒や自動車の輸出が増えることが見込まれているが、生産者の危惧も大きい。

最近の新聞を見ていて気になることは、EPAのような略号が日々増加しているように感じる。こと。昨年の秋頃には、日本とアメリカの経済交渉として、TPP（環太平洋連携協定）、FTA（自由貿易協定）、TAG（物品貿易協定）、NAFTA（北米自由貿易協定）などが報じられたが、専門家でもこれらの違いがよく理解できないともいう。

昔はWHOと言えれば世界保健機構（1948年～）などとすぐに言えたのであるが、近年の略号はメモ無しでは理解できないほど増大している。今年、日本が脱会したIWC（国際捕鯨委員会=51年に加入）はNATO（北大西洋条約機構、49年～）などとともに記憶に残る略号である。60年代にはOPEC（石油輸出国機構）やASEAN（東南アジア諸国連合）が成立し、後者は94年にASEM（アジア欧州会議）に発展したようである。この90年代にはWTO（世界貿易機関）、TICAD（アフリカ開発会議）

がある。START（第一次戦略兵器削減条約）は、米ソ間で87年に全廃条約としたINF（中距離核戦力）との関係であろうか。このINFは今夏に効力がないまま失効・破棄とのこと。それは70年からのNPT（核拡散防止条約）に反することで、今後が心配である。また先のASEANとも関連するAPEC（アジア太平洋経済協力会議）はTPPやFTA、TAGなどどのように絡んでくるのか不明である。さらに90年代ではPKO（国際平和維持活動）、NPO（民間非営利団体）が広まり、今も活躍している。97年からのOPCW（化学兵器禁止機関）は機能しているのであろうか心配である。

2000年に入り、06年の災害時のBCP（業務継続計画）が多く取り上げられ、同年からのLGBT（性的少数者）はかなり一般化した略号のようである。15年からのWADA（世界反ドーピング機関）の活動があるが、東京オリンピックを控える日本も要注意である。

以上、新聞報道などで略号を使わなければ紙面が煩雑になることもあって、略号表記が増えているのかと感じる昨今である。CD、DVD、CG、SNS、LEDなどは現代略号とも呼んでおこうか。無くなって欲しい略号DVもその一つか。

（公財）北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

新入会員紹介（敬称略）

次の方が新たに賛助会員になりました。
今後ともよろしくお願ひいたします。

成田 孝男 佐藤 一雄 山崎 澄子
谷島 幸雄 坂森 昇 北川 麻莉

※賛助会員（個人 一口3,000円、団体 一口10,000円）を募集しております。

詳しくは事務局までご連絡ください。

協会職員の動き

5月31日付け退職

事務局長 伊藤 文明

6月1日付け採用

事務局長 上野 靖（前事務局長次長）
事務局次長 坂森 昇

●表紙写真提供 三原和廣氏

編集後記

気温の上昇とともに夏の到来を感じる季節となりました。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。今号には、当協会の第1回理事会・定時評議員会の情報や、生涯学習の学びに関して投稿いただきご紹介をさせていただいております。

当協会では今後も「道民カレッジ事業」をはじめ「ほっかいどう学かでの講座」や「生きがいづくり生涯学習促進事業」など、様々な学びの機会をご提供できるよう努めてまいりますので、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。